

社会資本総合整備計画（暮らし・にぎわい再生事業）

人々が集い文化を奏でる中心市街地の創造と賑わいのあるまちづくり
（事後評価）

ふくしまけん しらかわし
福島県 白河市

令和元年10月

社会資本総合整備計画（暮らし・にぎわい再生事業） 事後評価書

計画の名称	人々が集い文化を奏でる中心市街地の創造と賑わいのあるまちづくり		
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	福島県白河市
計画の目標			

本市中心市街地は、城下町として長い歴史の中で、文化や伝統を育み、地域の交流や都市の交流を創造し、白河地方の中核としてその機能を果たしてきた。しかしながら都市機能の郊外への分散化や社会環境の変化などにより、中心市街地の空洞化、拠点性の喪失が進み、まちなかの魅力や賑わいが失われつつある。

また、中心市街地内に立地する現市民会館は、昭和39年建築で老朽化が進行し、施設機能が現在の芸術文化のニーズに応えられていないことや周囲の狭隘な道路及び駐車場不足などにより、芸術文化活動の場としての利用が低下してきており、さらには東日本大震災の深刻な被災により、劣化の状況が進み、根本的な文化芸術施設としての存続が困難なものとなっている。さらに、中心市街地市民交流センター（マイタウン白河）についても同様であり、昭和46年建築で老朽化していることや、大型商業施設が閉店撤退した施設であるため、施設全体が店舗形態であることから、施設の機能低下により市民や文化活動団体などの利用者から新たなニーズが生じている。

これらのことから、本計画により現市民会館に代わる文化芸術を機軸とした市民交流拠点として新たな市民文化会館及び中心市街地市民交流センター（マイタウン白河）を整備することにより、市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、中心市街地の魅力を高め、賑わいの創出を図ることを目標とするものである。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地内平日歩行者通行量を2,734人/日(H23)から2,750人/日(H28)に増加 市民会館利用者数を36,450人/年(H22)から86,000人/年(H28)に増加 中心市街地市民交流センター（マイタウン白河）利用者数を78,729人/年(H24)から100,000人/年(H28)に増加 		
----------------	---	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考					
	当初現況値 (H24当初)	中間目標値	最終目標値 (H28末)						
中心市街地内の8地点における平日歩行者通行量を調査する。	2,734人/日	—	2,750人/日						
市民会館利用者数を調査する。	36,450人/年	—	86,000人/年						
中心市街地市民交流センター（マイタウン白河）に係る年間利用者数を調査する。	78,729人/年	—	100,000人/年						
全体事業費	合計 (A+B+C) 11,299 百万円	A	9,178 百万円	B	0 百万円	C	2,121 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	18.8%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
暮らし・にぎわい再生事業担当課で評価を実施	交付期間終了後
	公表の方法
	白河市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	住宅	一般	白河市	直接	白河市	中心市街地文化ゾーン地区暮らし・にぎわい再生事業	(仮称)白河市民文化会館施設整備 面積 約4.6h a	白河市						8,059	
1-A-2	住宅	一般	白河市	直接	白河市	中心市街地交流拠点再生地区暮らし・にぎわい再生事業	白河市中心市街地市民交流センター大規模改修工事 面積 約0.2ha	白河市						1,119	
合計													9,178		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
														0	
合計													0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
1-C-1	住宅	一般	白河市	直接	白河市	(仮称)白河市民文化会館建設事業	(仮称)白河市民文化会館関連施設整備、用地取得	白河市						1,786	
1-C-2	住宅	一般	白河市	直接	白河市	(仮称)白河市民文化会館運営支援事業	(仮称)白河市民文化会館管理運営計画策定、開館記念事業	白河市						6	
1-C-3	住宅	一般	白河市	直接	白河市	安全・安心身近な整備事業	側溝整備、歩道整備	白河市						50	
1-C-4	住宅	一般	白河市	直接	白河市	白河市中心市街地市民交流センター大規模改修事業	施設整備、耐震補強工事、外壁改修工事	白河市						279	
合計													2,121		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	基幹事業の(仮称)白河市民文化会館建設に必要な用地の取得及び関連施設の整備を行うことにより、中心市街地の賑わい創出に寄与する。	
1-C-2	新たな市民文化会館が単なる鑑賞の場としてでなく、市民の文化芸術活動を促進し、日常的な賑わいを創造する地域の交流拠点として機能させることにより、基幹事業周辺地域の活性化を図る。	
1-C-3	基幹事業周辺地域の歩行エリアの整備を行い、狭あい道路の側溝の改修及び蓋掛け、歩道の段差等の解消を図ることにより、まちなかの回遊性向上に寄与する。	
1-C-4	公共的な施設として現行の耐震基準に適合させる耐震補強工事を実施するとともに、基幹事業と一体となって施設の機能向上を図る諸室を整備する。また、交流施設の顔づくりとして外観等を整備し良好な都市景観を形成する。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・平成28年10月23日にオープンした白河文化交流館「コミネス」は、本市の芸術文化活動の拠点として多くの市民に利用され、さらには多様な事業が展開されていることから市外からの利用者も多く、新たな中心市街地の賑わい創出の拠点として効果が発現されている。 ・平成28年11月15日にリニューアルオープンした中心市街地市民交流センター「マイタウン白河」は、入居テナントの利用者や定期的に開催されるイベントの参加など、多様な世代の方に利用されており、新たな交流拠点の場として効果が発現されている。 ・白河文化交流館「コミネス」や中心市街地市民交流センター「マイタウン白河」のオープン等により、中心市街地内の回遊性が向上している。
--------------------------------	---

II 定量的指標の達成状況		(計測年度 平成30年度)		目標値と実績値に差が出た要因	
指標① 中心市街地内の8地点における平日歩行者通行量	最終目標値	2,750人/日			平成28年10月に白河文化交流館「コミネス」がオープンし、隣接した市立図書館との相乗効果により新たな歩行者の流れが生まれた。また、11月には中心市街地市民交流センター(マイタウン白河)がリニューアルオープンし、中心市街地内の回遊性が向上したことにより、平成28年度まで減少していた平日歩行者通行量に歯止めが掛かり、平成29年度以降増加へ転じ、目標を上回る歩行者通行量となった。
	最終実績値	3,024人/日			
	指標② 市民会館利用者数	最終目標値	86,000人/年		白河駅前に整備された白河文化交流館「コミネス」は平成28年10月にオープンし、誰もが気軽に訪れる施設として利用されている。また、音響や照明装置など最先端の技術を導入したホールであることから、芸術的価値が高い多様なジャンルの事業が開催可能となり、市内のみならず市外及び県外からも集客が図られ、目標値を大きく上回る利用者となっている。
		最終実績値	124,143人/年		
	指標③ 中心市街地市民交流センター(マイタウン白河)に係る年間利用者数	最終目標値	100,000人/年		中心市街地の核となる当該施設は、市民の交流拠点として平成28年11月にリファイニング建築によりリニューアルオープンした。施設内には子育て支援施設やチャレンジショップ、介護福祉士専門学校などが入居し、日常的な賑わいが創出されたほか、定期的なイベントの開催により子供からお年寄りの方が集い・交流する施設として利用され、目標値以上の利用者数となっている。
		最終実績値	175,151人/年		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	J R白河駅前から西側のエリアにおいては、コミネスから市立図書館、駅前イベント広場へと繋がる新たな動線が整備され、施設の連続性と芝生や木々の間を抜ける歩道による美しい景観が形成されたことにより、新たなまちの顔として日常的に人々が訪れる場所となっている。
--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

今後も本事業において整備された施設の利用促進を図ると共に、中心市街地区域内における歴史的風致形成建造物やこれまで整備された拠点施設を有機的に結び付け、来街者の増加及び街なか回遊の促進に取り組む。また、まちづくりに関する団体等と連携したイベントなどを推進し、中心市街地の魅力を高めると共にさらなる賑わいの創出を図る。

(参考図面)

計画の名称	人が集い文化を奏でる中心市街地の創造と賑わいのあるまちづくり		
計画の期間	平成24年度 ~ 平成28年度 (5年間)	交付対象	福島県白河市(ふくしまけんしらかわし)

